

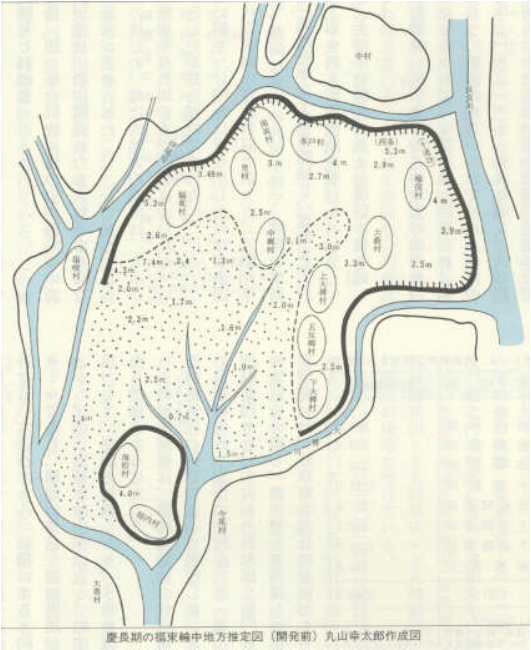
# 大士山江翁寺縁起

- 所在地            楡俣新田410番地 江翁寺
- 指定年月日      町指定 古文書 平成9年4月1日
- 時代              万治2年（1659年）

江翁寺の縁起は、万治2年（1659年）に江翁寺住職天隣玄瑞が記した。縁起には、「<sup>おうこいらい</sup>往古以来、<sup>びようびよう</sup>渺々たる<sup>あしはら</sup>葦原にて、ただ鳥獸の<sup>す</sup>栖む有るのみ、かつて生民の居る所に非ず。（中略）時は元和元年の年、岡田<sup>よしあつ</sup>善同、この地を<sup>しゆご</sup>守護す。公始め彼の広々たる葦原を見る。將軍に上告して直ちに命を受け、葦原を切り開いて稻田を作らんと欲す。（中略）この故に、元和七年辛酉に至って可長（北村可長といい、岡田善同の家老）善同公の命を受け、外には堤を築いて柳を植え、内には土を搬んで葦を刈る者幾千万数なるをを知らず。水治まりて、地平にして公田を耕開し云々」とある。

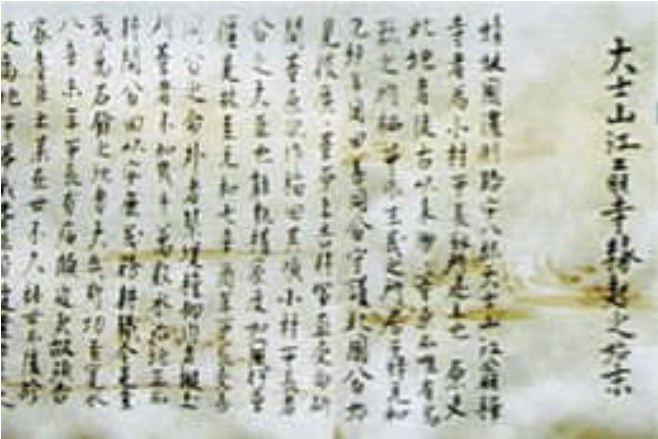
元和7年（1621年）から幕府代官岡田将監善同の命をうけて、家臣（家老）北村庄兵衛可長が楡俣新田の開発を指揮、また、承応3年に可長の冥福と里民の安全、繁栄を祈り、この地に江翁禅寺を建立した。かくして新田開発に着工した時期は元和七年とある。

寛永元年（1624年）、同2年に楡俣新田、上大樽新田の他6新田が岡田将監の検地を受けている。この縁起は福束輪中の貴重な新田開発資料で、楡俣新田開発時の模様がつぶさにみえる。



慶長期の福束輪中（開発前）

輪之内町の南部は広々とした草原や湿地であった。



大士山江翁寺縁起